

学校教育
に対する
保護者の
意識調査
2008
速報版

Benesse 教育研究開発センター・朝日新聞社共同調査

2008年9月

Benesse® 教育研究開発センター

学校教育に対する保護者の意識調査2008								速報版	
目次									

調査概要	3
基本属性	4

1 学校教育に対する意識

(1) 学校に期待する教育	5
(2) 学校公開や学校参加に対する希望	6
(3) 学校に対する満足度	7
(4) 教育改革に対する意見	10
(5) 学校教育に対する意識	12
(6) 学習指導要領改訂についての認知と意見	14
(7) 教育の状況に対する意識	15

2 学校外教育に対する意識と実態

(1) 学校外に期待する教育	16
(2) 習い事	17
(3) 塾での学習	19
(4) 学習時間	20
(5) 教育費	21



調査概要

●調査テーマ

保護者の学校教育に対する意識

●調査方法

学校通しによる家庭での自記式質問紙調査（子どもを經由した配布・回収）

●調査時期

《2004年調査》

2003年12月～2004年1月

《2008年調査》

2008年3月

●調査対象

《2004年調査》

全国の小2生、小5生、中2生をもつ保護者6,288名（配布数8,503名、回収率74.0%）

調査協力校：公立小学校26校、公立中学校20校

《2008年調査》

全国の小2生、小5生、中2生をもつ保護者5,399名（配布数6,901名、回収率78.2%）

調査協力校：公立小学校21校（うち前回実施17校）、公立中学校19校（うち前回実施14校）

※単年度での分析に際しては、2008年調査全体の結果を用いた。また、経年での変化をみる際は、継続実施校（小学校17校、2004年2,495名、2008年2,782名；中学校14校、2004年1,515名、2008年1,603名）に限って分析を行った。

●調査項目

学校や学校外の教育に期待すること／学校に望むこと／学校や先生とのかかわり／学校の取り組みへの満足度／習い事や塾／子どもの学習の様子／教育費／希望する進学段階／中学受験／教育改革の取り組みについての賛否／取り組みの実施や制度変更についての賛否／教育をめぐる意見／学習指導要領の改訂／授業時間の増加を希望する教科／子ども・家庭・地域・学校の様子／教育予算の配分についての意識

※この調査は、朝日新聞社と共同で企画・実施したものである。

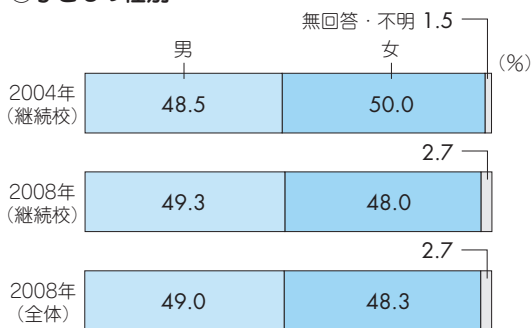
基本属性

サンプル数

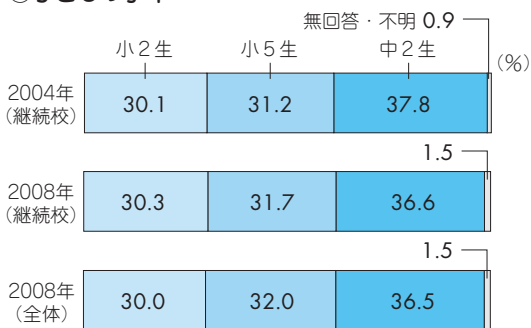
	全体	小2生	小5生	中2生	学年不明
2004年	6,288(4,010)	2,038(1,207)	2,068(1,251)	2,120(1,515)	62(37)
2008年	5,399(4,385)	1,621(1,329)	1,727(1,389)	1,972(1,603)	79(64)

※ ()は継続して調査を実施した学校のサンプル数。

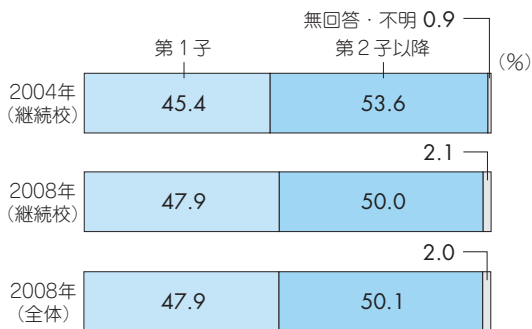
①子どもの性別



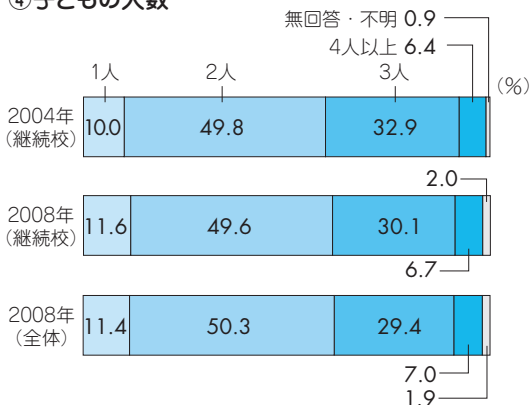
②子どもの学年



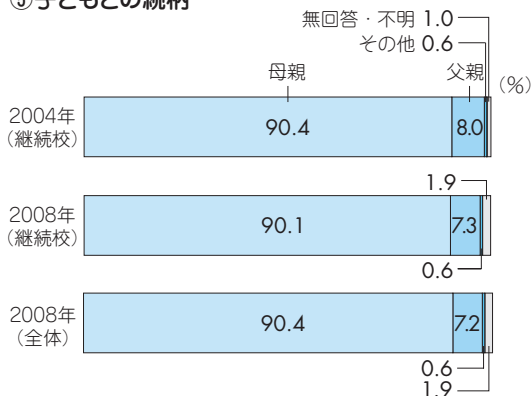
③子どもの出生順位



④子どもの人数



⑤子どもとの続柄





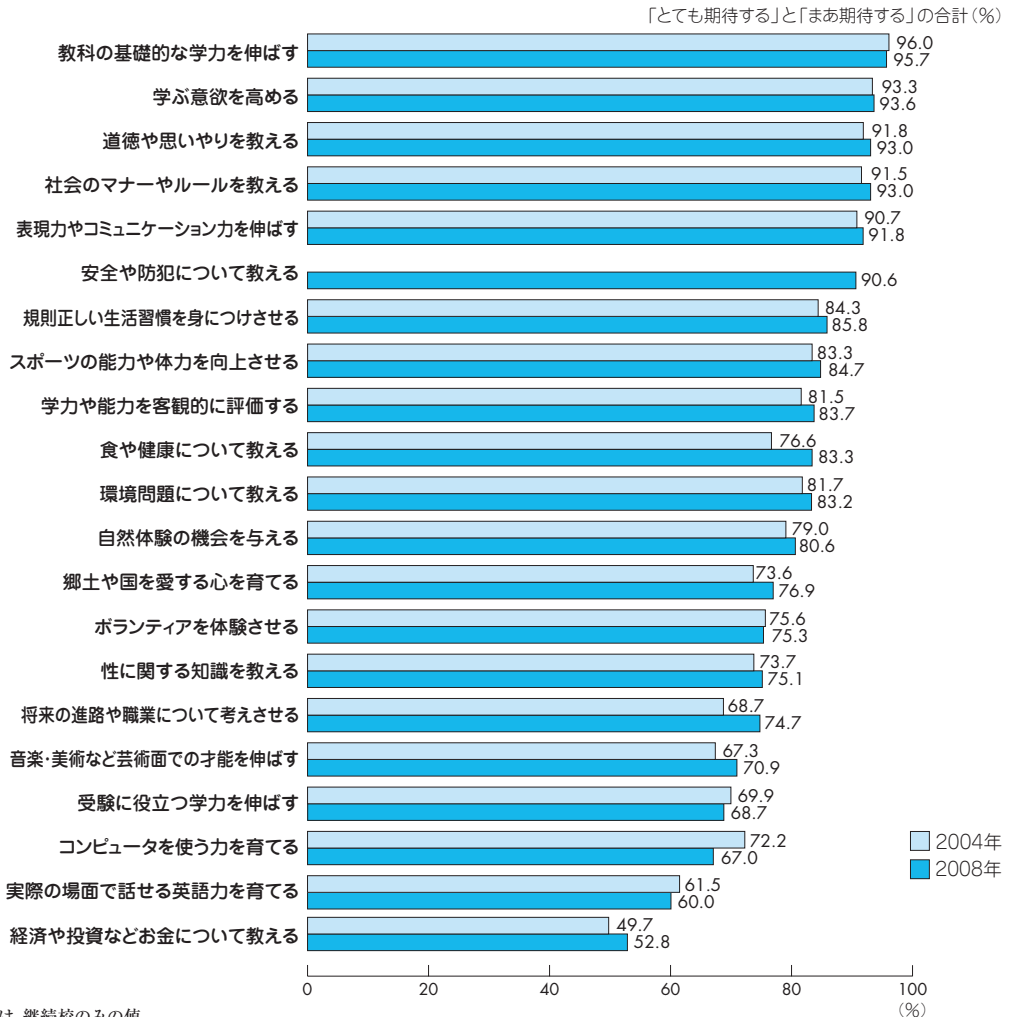
学校教育に対する意識

(1) 学校に期待する教育

「食育」や「キャリア教育」に対する期待が高まっている

Q 学校にどのような教育や指導を期待しますか

図1-1 学校に期待する教育(経年変化)



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:「安全や防犯について教える」は2004年調査でははずねていない。

学校にどのような教育や指導を期待するかをたずねたところ、「教科の基礎的な学力を伸ばす」「学ぶ意欲を高める」などの基礎学力や学習意欲の向上にかかわる項目や、「道徳や思いやりを教える」「社会のマナーやルールを教える」「表現力やコミュニケーション力を伸ばす」などの社会性の育成にかかわる

項目が上位になった。「期待する(とても十まあ)」の比率について2004年調査からの変化をみると、「食や健康について教える」が6.7ポイント、「将来の進路や職業について考えさせる」が6.0ポイント増加している。その一方で、「コンピュータを使う力を育てる」は5.2ポイント減少した。



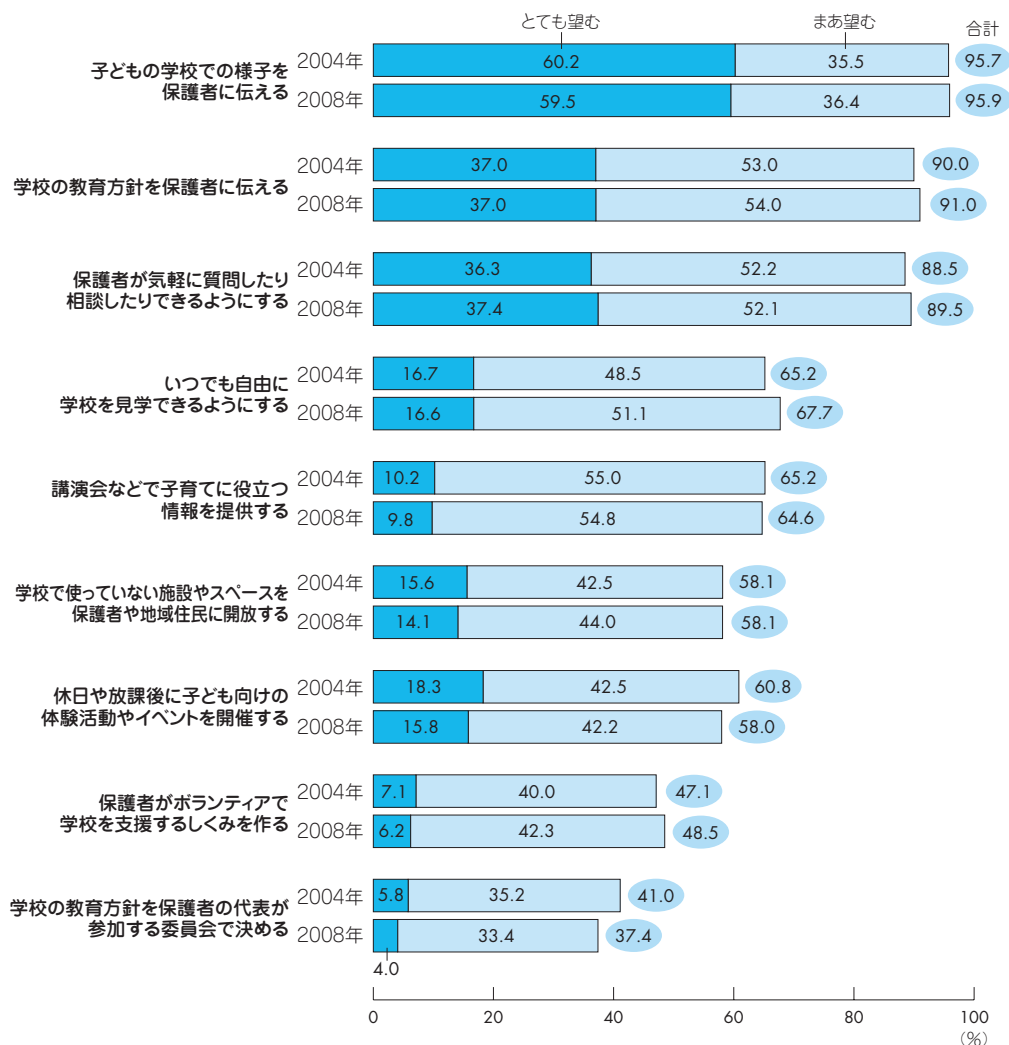
(2) 学校公開や学校参加に対する希望

子どもの様子や教育方針を積極的に伝えてほしいと考えている



お子様が通われている学校に、次のようなことを望みますか

図1-2 学校公開・学校参加の希望(経年変化)



注:数値は、継続校のみの値。

「望む(とても+まあ)」が9割を超えたのは、「子どもの学校での様子を保護者に伝える」「学校の教育方針を保護者に伝える」の2項目である。学校が積極的に情報を公開することを、強く望んでいる。さらに、「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」も約9割が「望む」と回答しており、

学校とのコミュニケーションを期待しているようだ。しかし、「学校の教育方針を保護者の代表が参加する委員会で決める」「保護者がボランティアで学校を支援するしくみを作る」といった学校運営に直接参加する項目は、「望む」が5割を下回った。こうした傾向は、2004年調査から大きく変化していない。



(3) 学校に対する満足度

① 総合満足度

子どもが通う学校に「満足している」という回答が増えている



総合的に見て、お子様が通われている学校に満足していますか

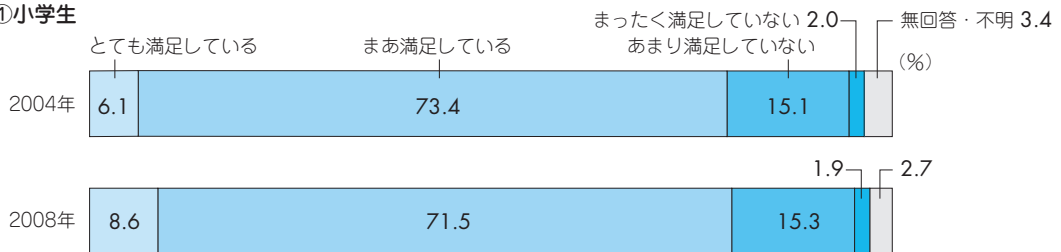
図1-3 学校の総合満足度(全体/学校段階別・経年変化)

【全体】

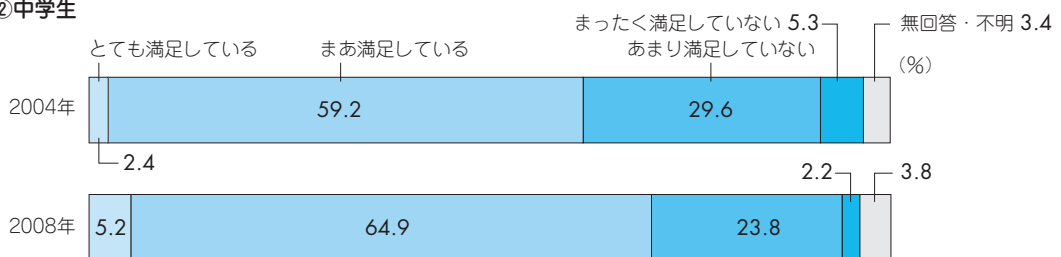


【学校段階別】

① 小学生



② 中学生



注: 数値は、継続校のみの値。

学校に対する保護者の満足度が高まっている。継続で調査を実施している小・中学校全体の数値を2004年調査と2008年調査で比較すると、「満足している(とても+まあ)」の比率は、72.8%から76.4%と3.6ポイント増加している。これを学校段階別にみると、小学生の保護者は「満足している」の比率

が79.5%から80.1%と0.6ポイント増加して、8割を超えた。さらに、中学生の保護者は、2004年調査の61.6%から70.1%と8.5ポイント増加して、7割を超えた。中学生の保護者は小学生の保護者に比べて「満足している」と回答する割合がやや低いものの、両者の差は縮まっている。



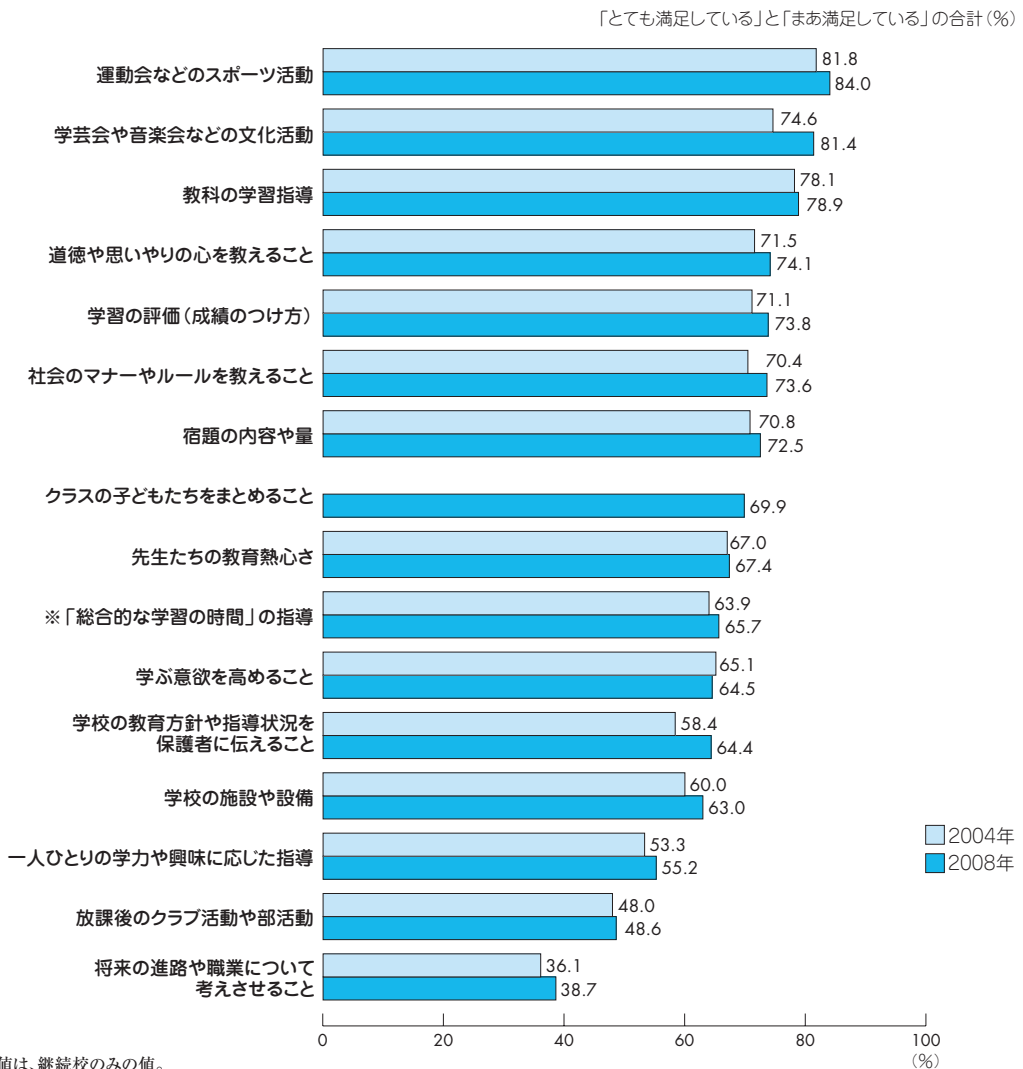
②指導や取り組みに対する満足度（小学生保護者）

「文化活動」「教育方針や指導状況の伝達」に対する「満足」が増えている



学校の取り組みに対して満足していますか

図1-4 指導や取り組みに対する満足度（小学生保護者・経年変化）



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:「クラスの子どもたちをまとめること」は2004年調査ではたずねていない。

注3:※は小5生の保護者のみ回答。

16項目中14項目で、「満足している（とてもまああ）」の割合が半数を超えている。さらに、ほとんどの項目で、「満足している」の割合が増加しており、それぞれの取り組みに対する満足度が高まっていることがわかる。そのなかでも、「学芸会や音楽会など

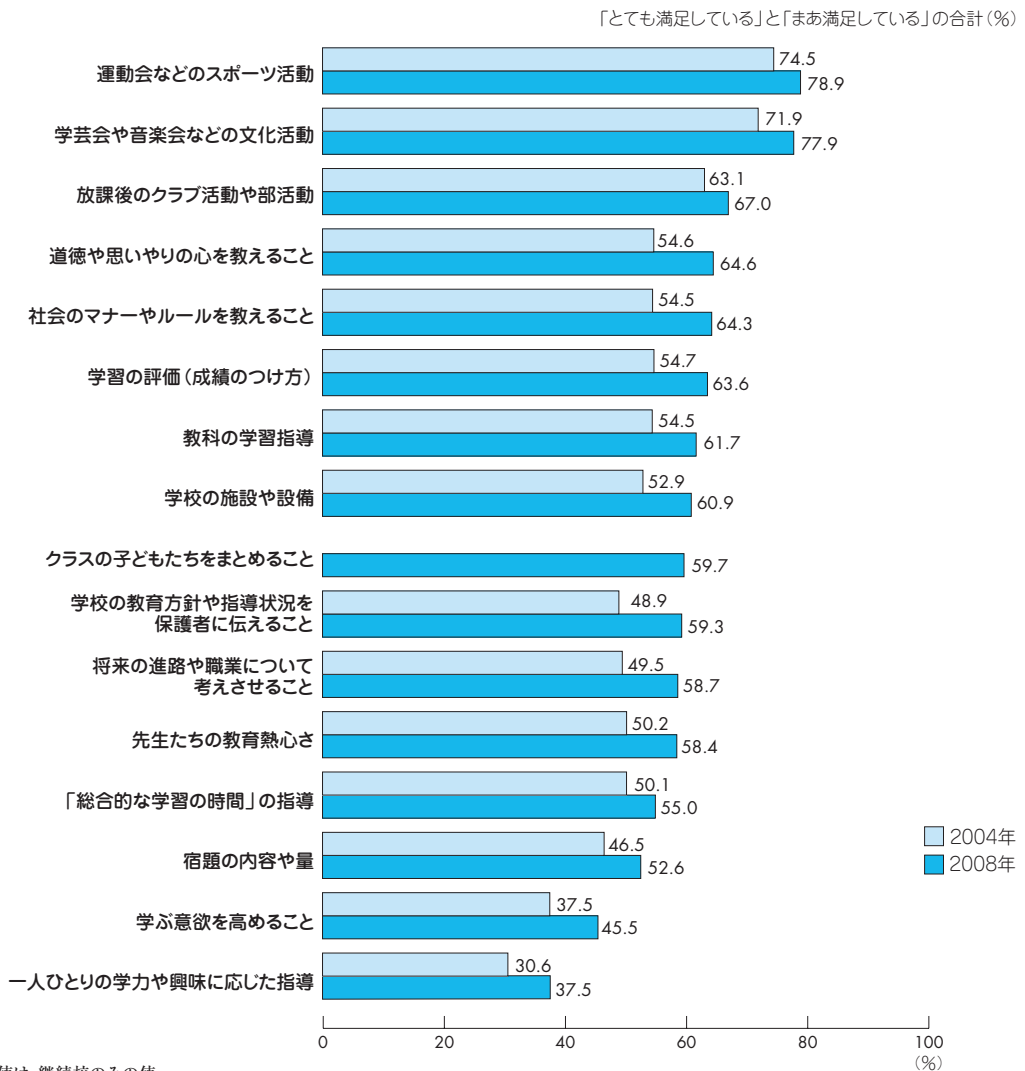
の文化活動」が6.8ポイント増加しており、もっとも増えている。このほか、「学校の教育方針や指導状況を保護者に伝えること」は6.0ポイント増加した。保護者の期待に応じて、学校が情報を積極的に発信することが多くなっている様子がうかがえる。

③指導や取り組みに対する満足度（中学生保護者）

ほとんどの項目で「満足」の割合が大きく増えている

Q 学校の取り組みに対して満足していますか

図1-5 指導や取り組みに対する満足度（中学生保護者・経年変化）



2004年調査と比べるとほとんどの項目で、「満足している（とても＋まあ）」の割合が5～10ポイント程度増えており、学校が行っている取り組みに満足する保護者が増えているようだ。とくに増加している項目は、「学校の教育方針や指導状況を保護者に伝えること」（48.9→59.3%）、「道徳や思いやり

の心を教えること」（54.6→64.6%）、「社会のマナーやルールを教えること」（54.5%→64.3%）で、10ポイント前後増加した。そのほか、「将来の進路や職業について考えさせること」（9.2ポイント増）、「学習の評価（成績のつけ方）」（8.9ポイント増）などの項目で、満足度が高まっている。



(4) 教育改革に対する意見

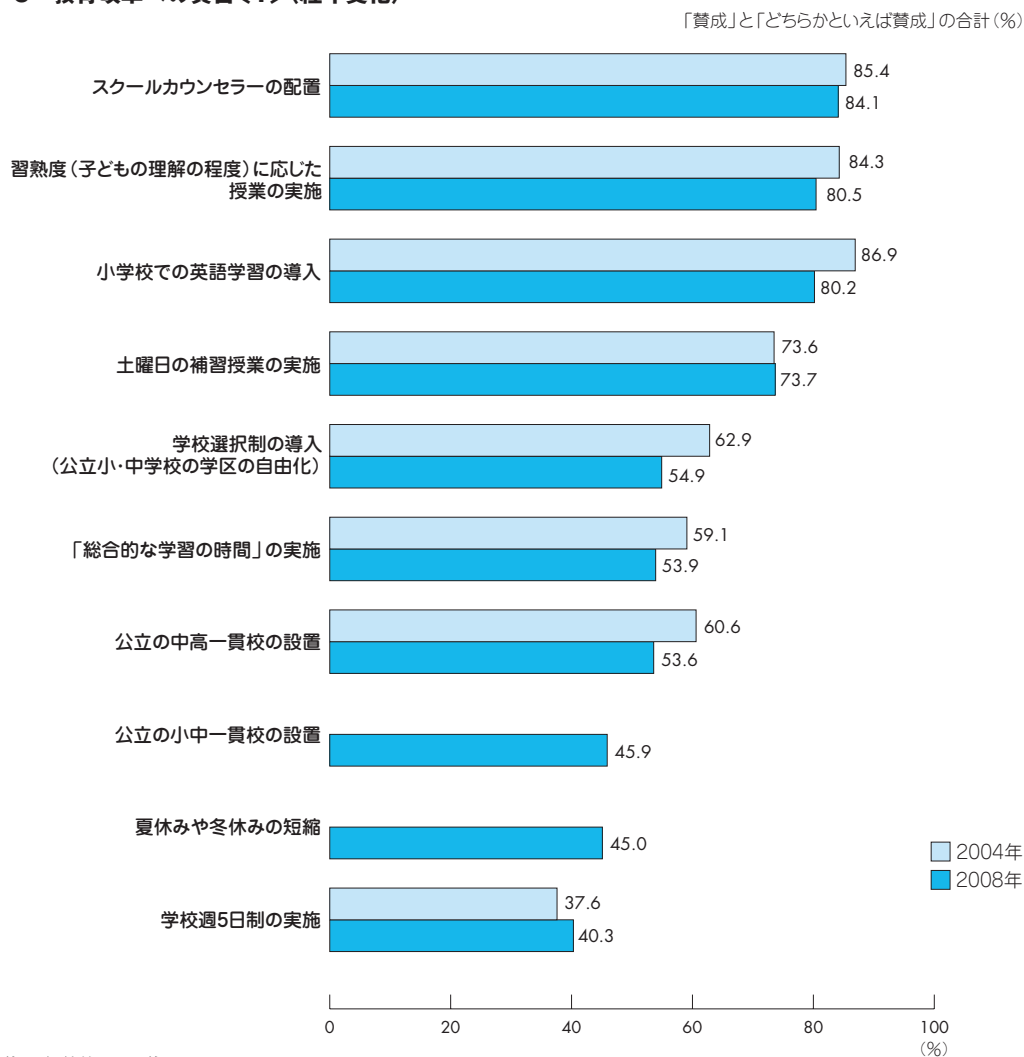
①教育改革への賛否〔1〕

「小学校英語」「学校選択制」で「賛成」が減少している



教育改革で導入・検討されている取り組みについて賛成ですか

図1-6 教育改革への賛否〔1〕(経年変化)



注1: 数値は、継続校のみの値。

注2: 「公立の小中一貫校の設置」「夏休みや冬休みの短縮」は2004年調査ではたずねていない。

注3: 選択肢は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」に「わからない」を加えた5つから選択してもらっている。

全体に、「賛成」(「どちらかといえば」を含む)の比率が減少する項目が多い。なかでも、「学校選択制の導入」「公立の中高一貫校の設置」「小学校での英語学習の導入」「『総合的な学習の時間』の実施」の4項目は、「賛成」が5ポイント以上減少した。とはいえ、これらの項目はいずれも、半数以上が「賛成」

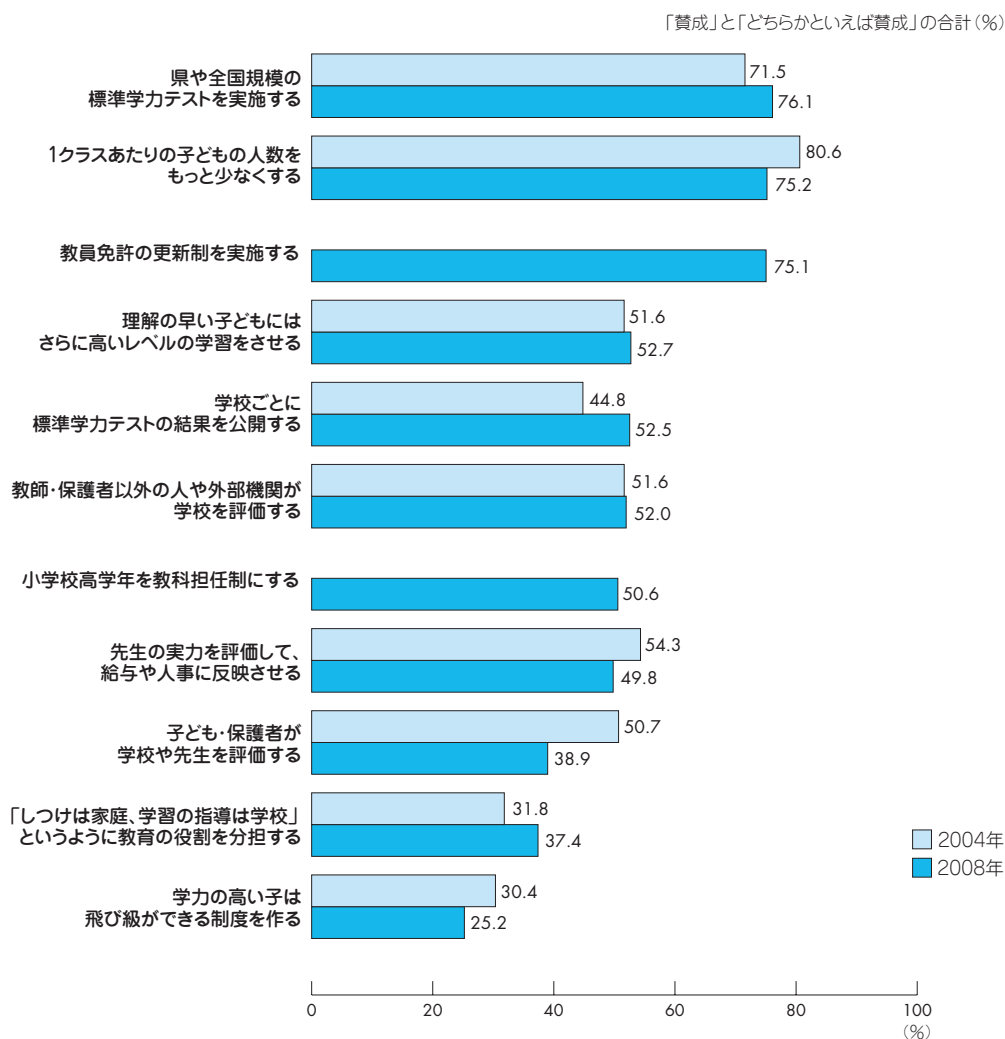
している。図では省略したが、「公立の小中一貫校の設置」「公立の中高一貫校の設置」は「わからない」という回答が2割を超えており、判断できない保護者も多いようだ。「反対」(「どちらかといえば」を含む)が半数を超えたのは、「学校週5日制の実施」(50.6%)だけであった。

②教育改革への賛否〔2〕

学力テストの「実施」や「結果公開」に「賛成」する保護者が増えた

Q 次のような取り組みの実施や制度の変更に賛成ですか

図1-7 教育改革への賛否〔2〕（経年変化）



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:「教員免許の更新制を実施する」「小学校高学年を教科担任制にする」は2004年調査ではたずねていない。

注3:選択肢は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」に「わからない」を加えた5つから選択してもらっている。

「県や全国規模の標準学力テストを実施する」は「賛成」（「どちらかといえば」を含む）が4.6ポイント増えて、4人に3人が賛意を示す結果になった。さらに、「学校ごとに標準学力テストの結果を公開する」も「賛成」が7.7ポイント増えて、過半数に達した。このように、学力テストに関連する項目の

「賛成」が増えている一方で、学校評価に関する項目は減っている。「教師・保護者以外の人や外部機関が学校を評価する」は横ばいだが、「子ども・保護者が学校や先生を評価する」は50.7%から38.9%に減少した。自ら学校を評価することについては、抵抗感が強まっているようだ。



(5) 学校教育に対する意識

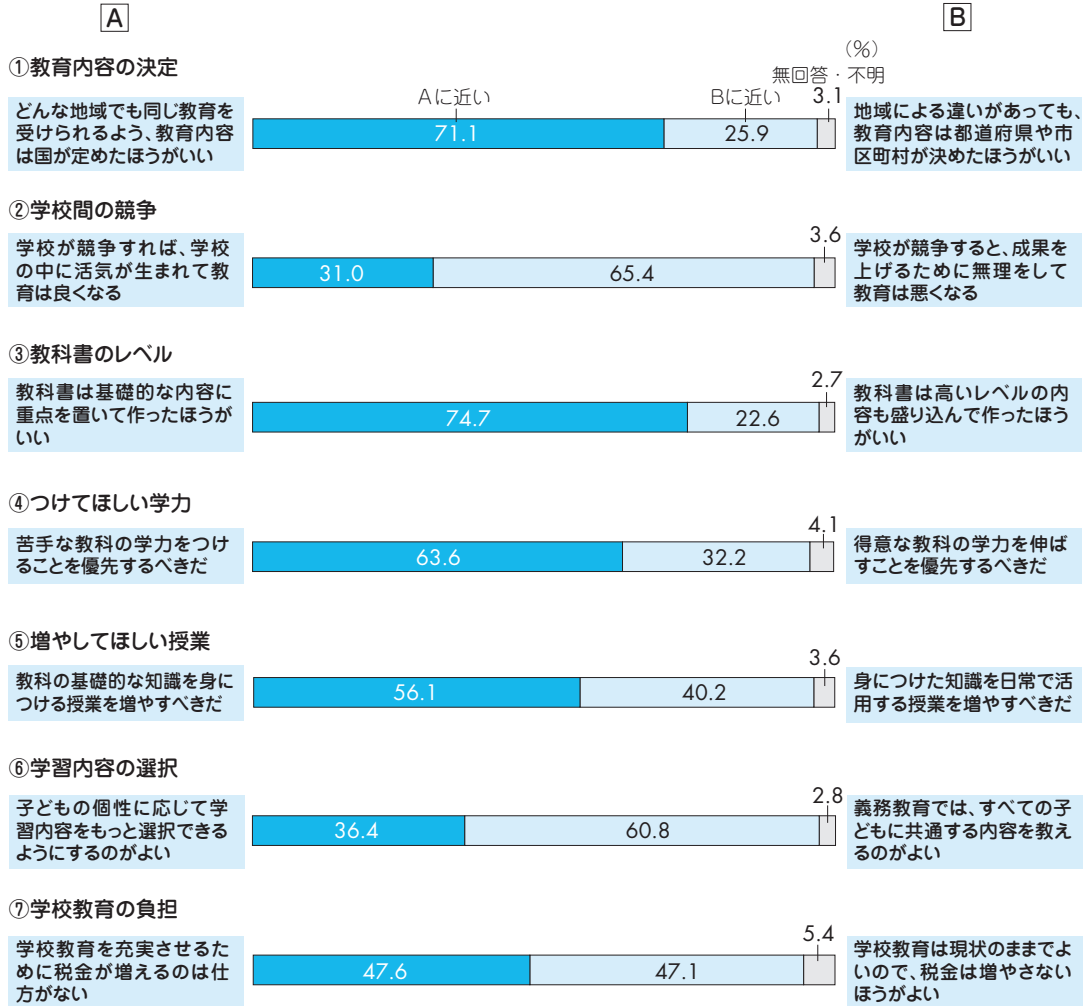
①保護者が望む学校教育の姿

「基礎的な内容を」「すべての子どもに」という意見が多い



ふたつの意見のうち、あなたの考えに近いのはどちらですか

図1-8 学校教育に対する意見



注1:数値は、2008年調査全体の値。

注2:「Aに近い」は「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計、「Bに近い」は「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計。

①教育内容の決定については、「国が定めたほうがよい」が71.1%（「どちらかといえば」を含む）と多い。②学校間の競争については、競争によって「教育は悪くなる」が65.4%と多数である。さらに、③教科書のレベルは、「基礎的な内容」を望む保護者が74.7%で、4人に3人が支持する。このほか、④

つけてほしい学力では、「苦手な教科」を優先、⑤増やしてほしい授業では、「基礎的な知識を身につける授業」を重視、⑥学習内容の選択では、「すべての子どもに共通する内容」を希望する保護者が多い。⑦学校教育の負担に対する質問では、意見がほぼ半分ずつに分かれた。

②教育についての意見

授業時間は「今よりも増やしたほうがいい」が増加している

Q 次のような問題について、あなたはどのように思いますか

図1-9 教科の授業時間（経年変化）

教科の授業時間について、あなたはどのように思いますか。

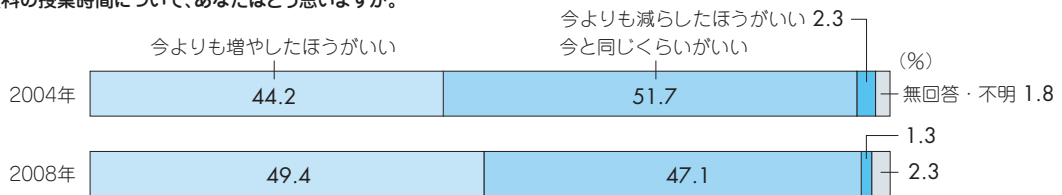


図1-10 教育の不平等（全体・経年変化、経済状況別）

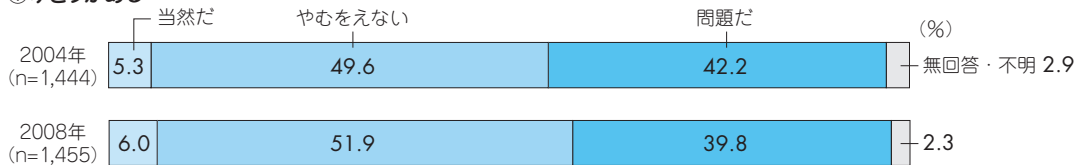
所得の多い家庭の子どものほうが、よりよい教育を受けられる傾向があるとされます。こうした傾向について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

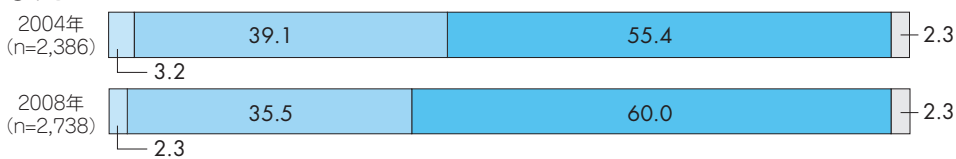


【経済状況別】

①ゆとりがある



②ゆとりがない



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:「経済的にゆとりがある」は、「あなたの生活には経済的にどの程度ゆとりがありますか」という質問に「ゆとりがある」「多少はゆとりがある」と回答した保護者。「経済的にゆとりがない」は、「ゆとりがない」「あまりゆとりがない」と回答した保護者。

教育についての意見として、授業時間の増減と教育の不平等の問題をたずねた。授業時間の増減については、「今よりも増やしたほうがいい」が44.2%から5.2ポイント増加して約半数となった。これに対応して、「今と同じくらいがいい」「今よりも減らしたほうがいい」は減少している。教育の不平等に関しては、所得により教育格差が生じることに對す

る意見をたずねたが、「問題だ」という認識が52.7%でもっとも多く、2004年調査からわずかに増えた。こうした認識は家庭の経済状況によって異なっており、「問題だ」の割合は、経済的に「ゆとりがある」保護者が4割であるのに対して、「ゆとりがない」と6割になる。



(6) 学習指導要領改訂についての認知と意見

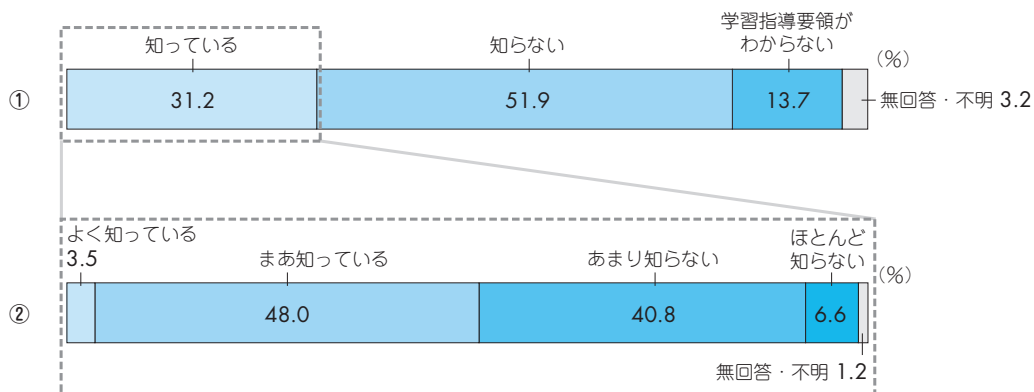
学習指導要領の改訂を「知っている」保護者は3割にとどまる



学習指導要領の改訂についてお聞きします

図1-11 学習指導要領改訂の認知

- ①2011年以降に学習指導要領が変わることを知っていますか。
- ②今回の変更内容について、どのくらい知っていますか。



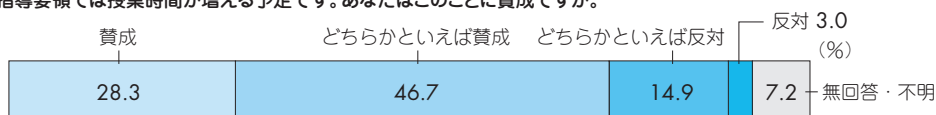
注1: 数値は、2008年調査全体の値。

注2: ②「改訂される内容の認知」は、①「改訂の認知」についての質問で「知っている」と回答した人(1,685名)だけにたずねた。

図1-12 学習指導要領改訂に対する意見

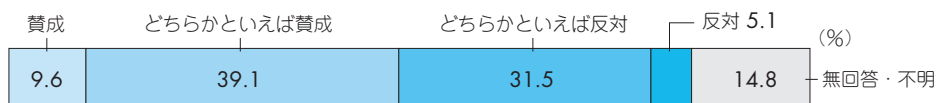
①授業時間の増加

次の学習指導要領では授業時間が増える予定です。あなたはこのことに賛成ですか。



②「総合的な学習の時間」の縮減

次の学習指導要領では「総合的な学習の時間」が少なくなる予定です。あなたはこのことに賛成ですか。



注: 数値は、2008年調査全体の値。

学習指導要領の改訂について知っているかどうかをたずねたところ、「知っている」という回答は3割にとどまった。「知らない」が半数を超え、「学習指導要領がわからない」も1割を超える。さらに、「知っている」と回答した保護者に改訂内容を認知しているかをたずねてみると、「知っている（よく十まあ）」という回答は半数程度であった。保護者の多

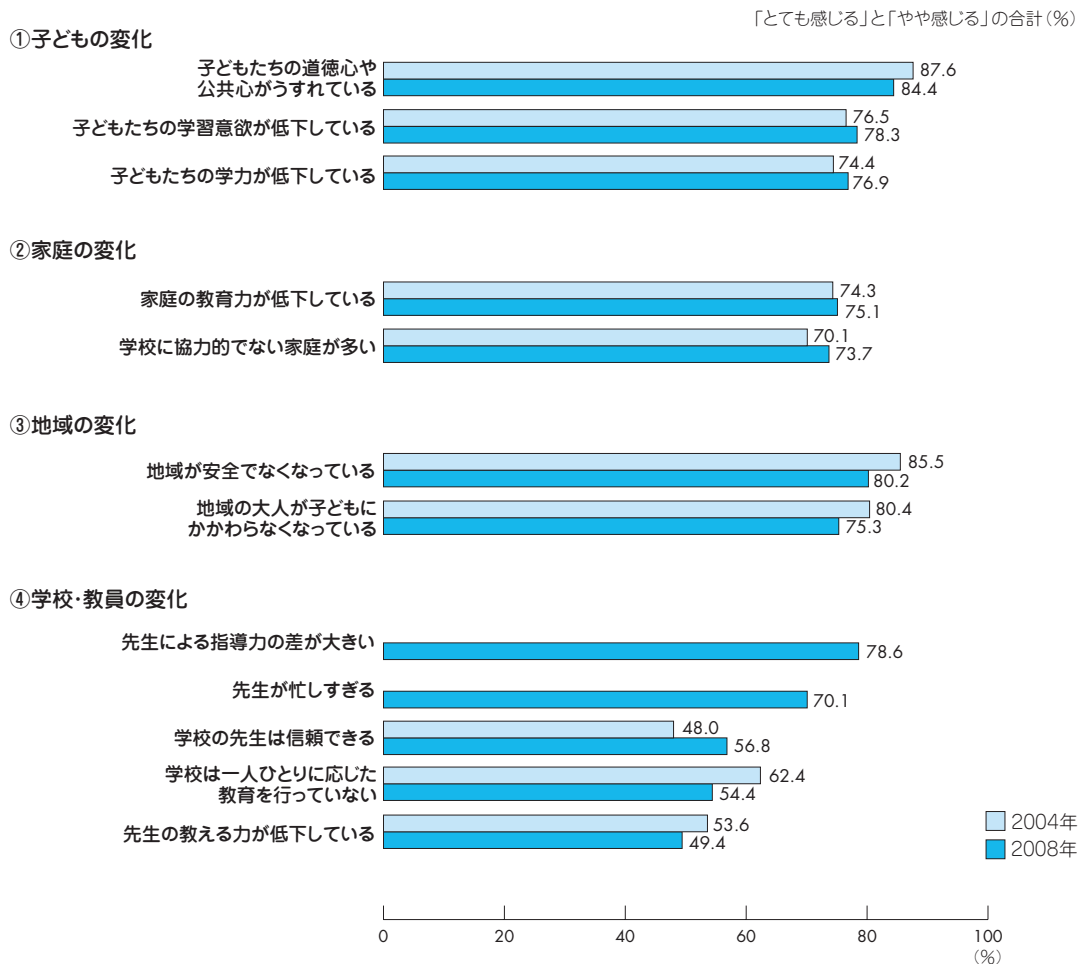
くは、学校教育がどのように変わるかを十分に理解していないことがわかる。ただし、改訂の柱である授業時間の増加と「総合的な学習の時間」の縮減について賛否を問うたところ、いずれも「反対」（「どちらかといえば」を含む）より「賛成」（「どちらかといえば」を含む）のほうが多かった。

(7) 教育の状況に対する意識

学校や先生に対する信頼感が高まり、不満が弱まっている

子どもや家庭、地域、学校の様子について、次のようなことを感じますか

図1-13 教育状況に対する認識（経年変化）



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:「先生による指導力の差が大きい」「先生が忙しすぎる」は2004年調査ではたずねていない。

注3:選択肢は、「とても感じる」「やや感じる」「あまり感じない」「まったく感じない」に「わからない」を加えた5つから選択してもらっている。

教育をめぐる状況の変化について、どれくらい感じているかをたずねた。①子どもの変化と②家庭の変化については、2004年調査と2008年調査で大きな認識の違いはみられなかった。しかし、③地域の変化については、7割を超える保護者が「地域が安全でなくなっている」「地域の大人が子どもにかかわらなくなっている」と「感じる（とても十やや）」

ものの、その割合は減少している。さらに、④学校・教員の変化については、学校や教員に対する不信・不満が、この4年間で改善された。「学校の先生は信頼できる」と「感じる」割合が増加し、また、「学校は一人ひとりに応じた教育を行っていない」「先生の教える力が低下している」は減少している。

2

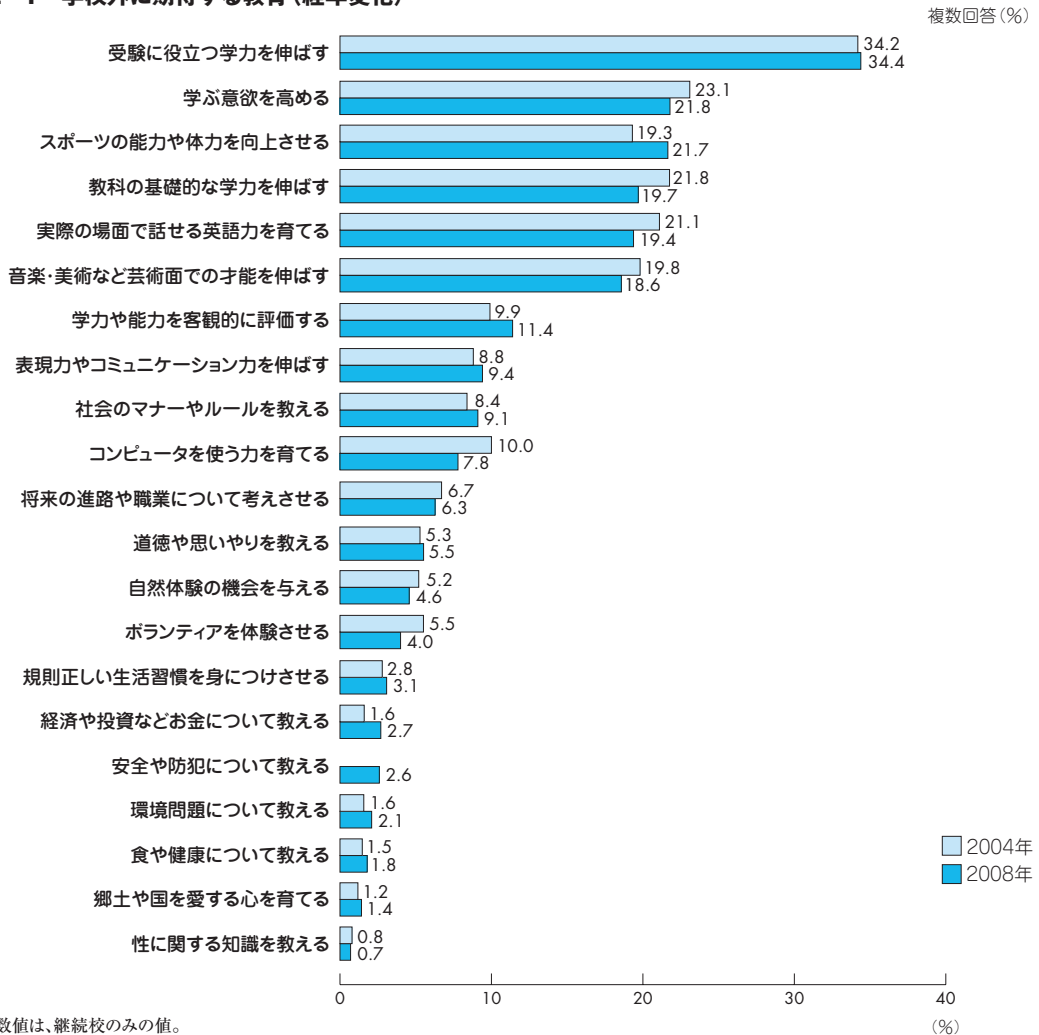
学校外教育に対する意識と実態

(1) 学校外に期待する教育

「受験に役立つ学力を伸ばす」ことを、もっとも期待している

Q 学校外教育（習い事や塾など）に期待することはありますか

図2-1 学校外に期待する教育（経年変化）



注1: 数値は、継続校のみの値。

注2: 「安全や防犯について教える」は2004年調査ではたずねていない。

学校外教育に期待することとしてあてはまるものを、21項目のなかから選んでもらった。もっとも選択される比率が高かったのは、「受験に役立つ学力を伸ばす」で34.4%だった。これに、「学ぶ意欲を高める」「スポーツの能力や体力を向上させる」「教科の基礎的な学力を伸ばす」「実際の場面で話せる

英語力を育てる」「音楽・美術など芸術面での才能を伸ばす」の5項目が2割前後で続く。これらはいずれも、子どもたちの習い事としても多い内容である。2004年調査と2008年調査の差はいずれの項目も3ポイント以内にとどまっており、4年間で大きな変化はみられなかった。



(2) 習い事

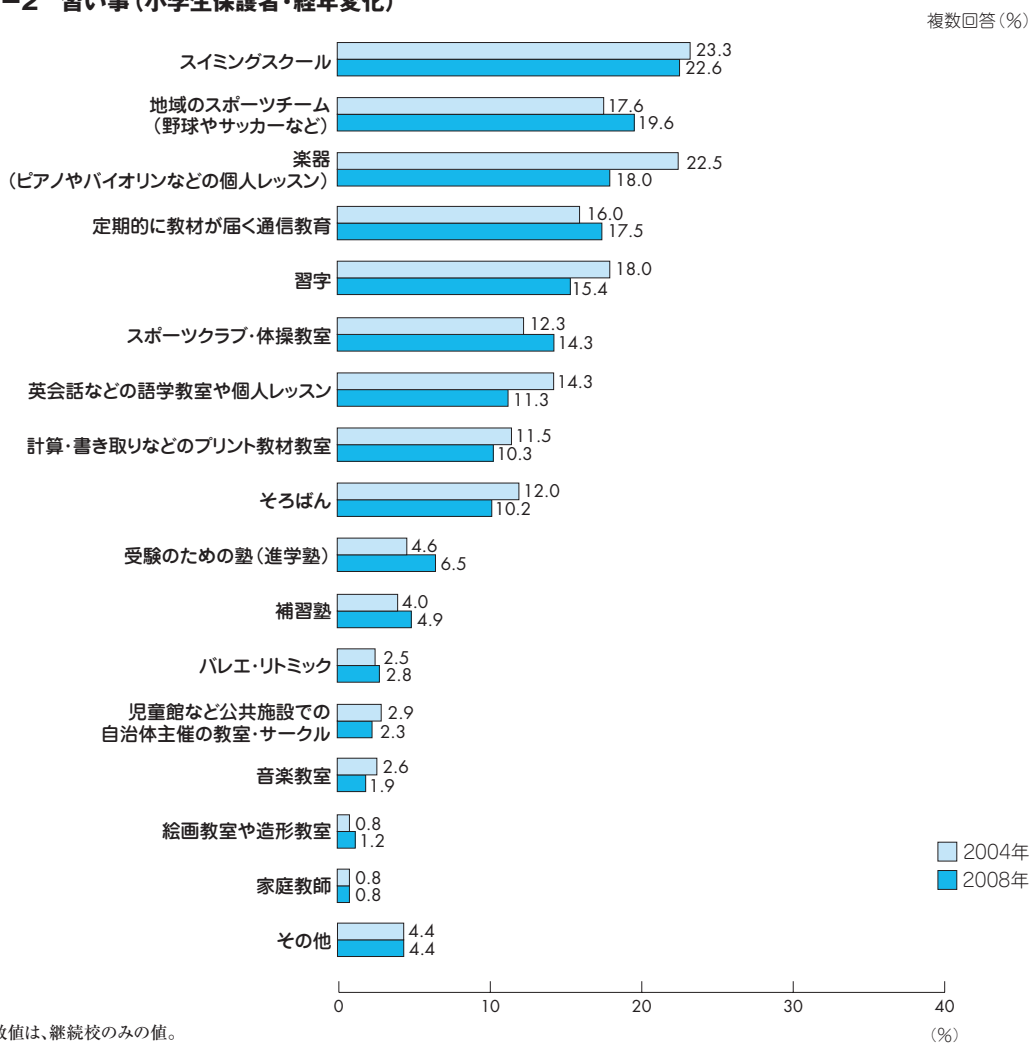
①小学生の習い事

スポーツ、芸術、学習に関する習い事をバランスよくしている



お子様がしている習い事や塾があれば、すべて選んでください

図2-2 習い事(小学生保護者・経年変化)



習い事について小学生の保護者にたずねたところ、「スイミングスクール」がもっとも多く、「地域のスポーツチーム」「スポーツクラブ・体操教室」などの人気も高かった。中学生に比べて、スポーツに関する習い事が多いのが、小学生の特徴である。さらに、「楽器」「音楽教室」の合計が2割、「通信教育」「プ

rint教材教室」「受験のための塾」「補習塾」の合計が4割であり、芸術や学習に関する習い事もさかんだった。経年の推移に注目すると、「地域のスポーツチーム」などのスポーツに関する習い事がわずかに増加する一方で、「楽器」「英会話などの語学教室や個人レッスン」などが減少している。



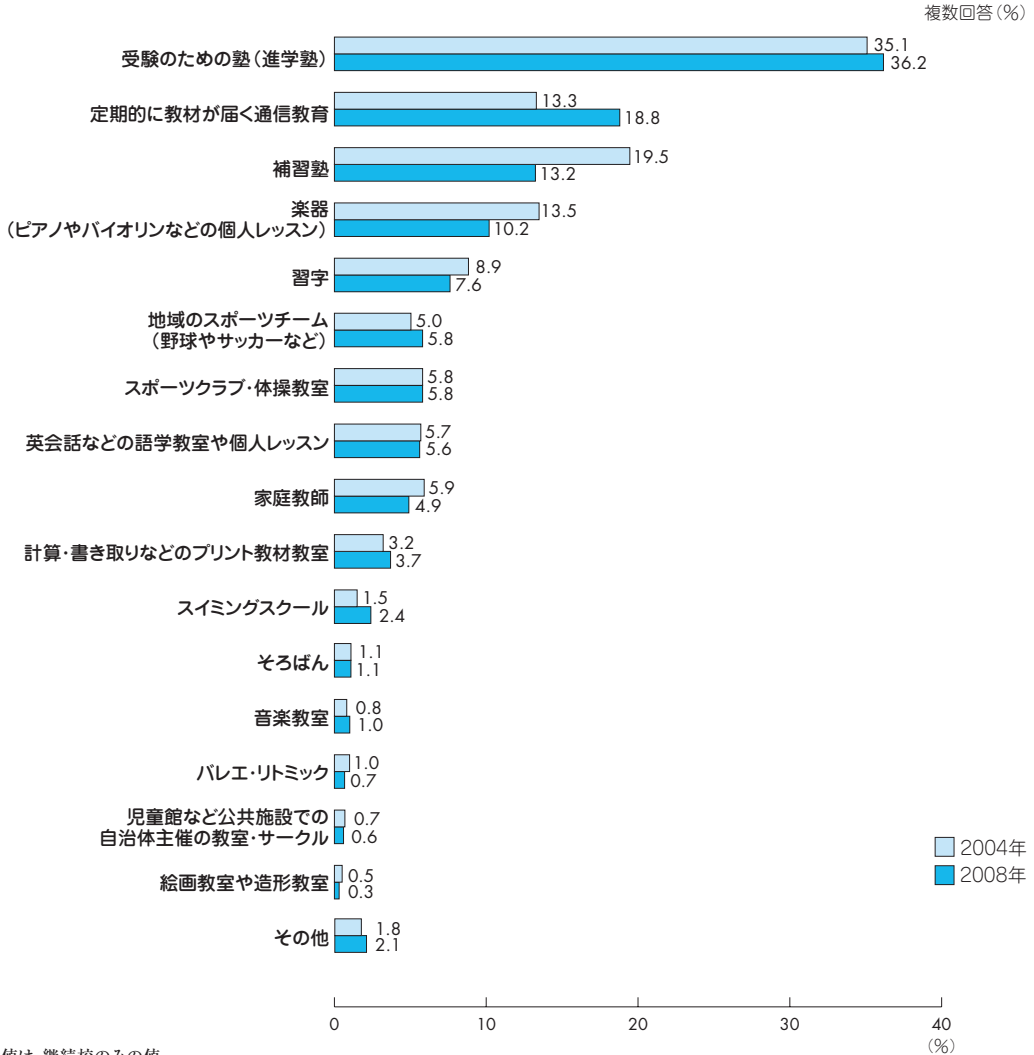
②中学生の習い事

習い事の上位は、学習に関するもので占められている



お子様がしている習い事や塾があれば、すべて選んでください

図2-3 習い事(中学生保護者・経年変化)



中学生の習い事は、学習に関するものが上位を占めている。「受験のための塾」が36.2%と最も高く、「通信教育」が18.8%、「補習塾」が13.2%で続く。「楽器」がかるうじて1割を超えるが、それ以外の習い事はいずれも1割を下回る。学習以外の習い事が少ないのは、中学校に部活動があるためだろ

う。2004年調査と2008年調査の比較では、「定期的に教材が届く通信教育」が5.5ポイント増加したのに対して、「補習塾」が6.3ポイント減少した。それ以外の項目では、「楽器」がわずかに減少しているだけで、大きな変化はみられなかった。



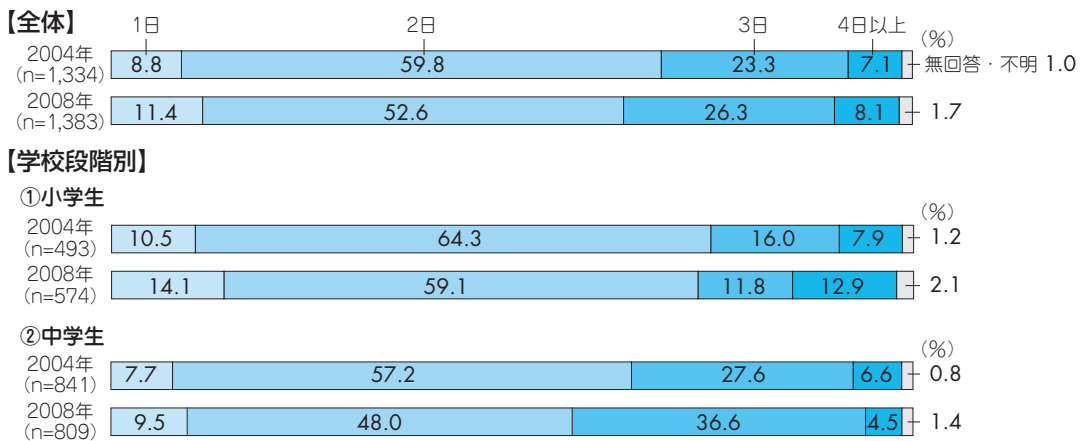
(3) 塾での学習

塾に通う日数が増えている



1週間に何日くらい、1回の通塾で何時間くらい勉強していますか

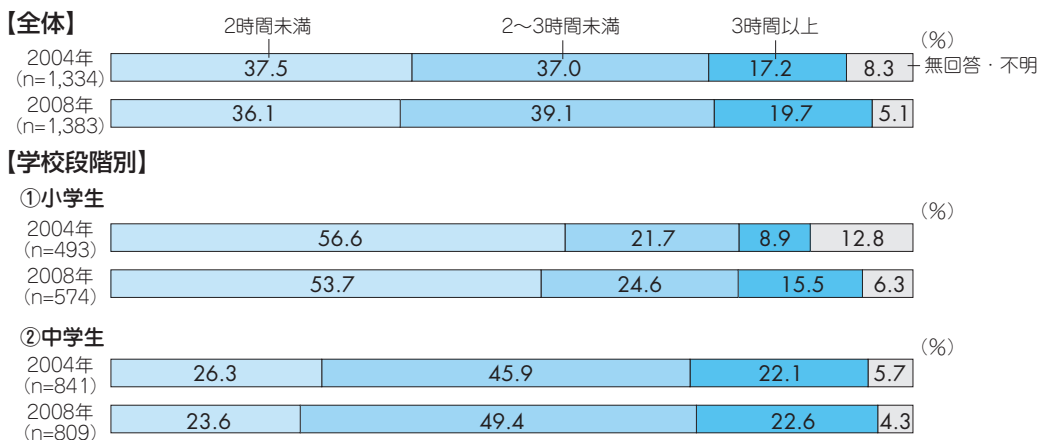
図2-4 1週間の通塾日数(全体/学校段階別・経年変化)



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:習い事や塾をしているかどうかの質問で、「計算・書き取りなどのプリント教材教室」「受験のための塾」「補習塾」のいずれか1つ以上に○をつけた保護者のみ回答。

図2-5 通塾1回あたりの学習時間(全体/学校段階別・経年変化)



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:習い事や塾をしているかどうかの質問で、「計算・書き取りなどのプリント教材教室」「受験のための塾」「補習塾」のいずれか1つ以上に○をつけた保護者のみ回答。

子どもを塾に通わせている保護者に対して、子どもが週に何日くらい通っているか、1回あたりにどれくらい勉強しているかをたずねた。通塾日数は、「2日」という回答が通塾者のうち52.6%と半数を超えている。しかし、頻度は増える傾向にあり、「3日」以上（「3日」＋「4日以上」）の回答が30.4%から

34.4%になった。通塾1回あたりの時間は、大きな経年変化はみられなかった。全体では「2時間未満」と「2~3時間未満」がともに3割台だが、小学生と中学生で大きく異なっており、小学生では「2時間未満」が、中学生では「2~3時間未満」と回答した割合がもっとも高い。



(4) 学習時間

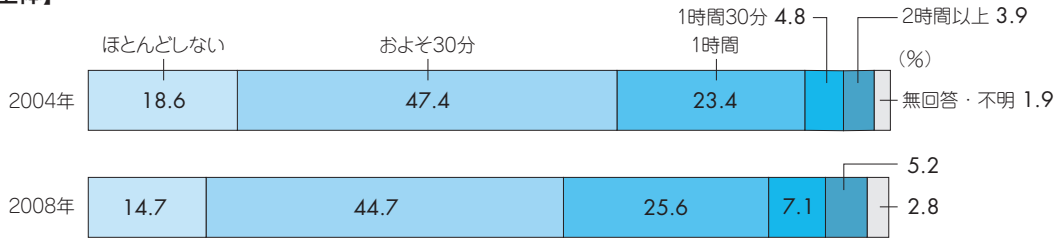
「ほとんどしない」「30分」が減少し、家庭での学習時間が長くなっている



お子様はふだん、1日に平均してご家庭でどれくらい勉強しますか

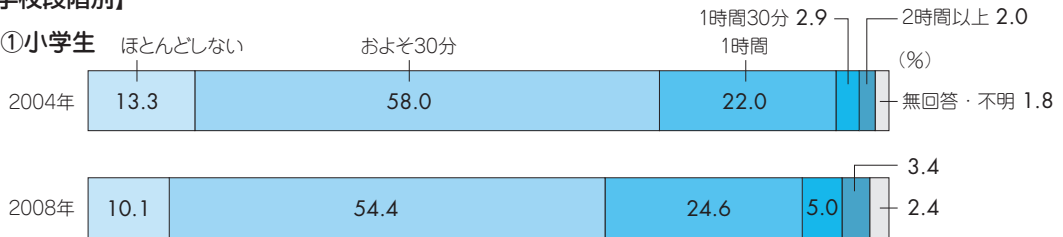
図2-6 家庭学習時間(全体/学校段階別・経年変化)

【全体】

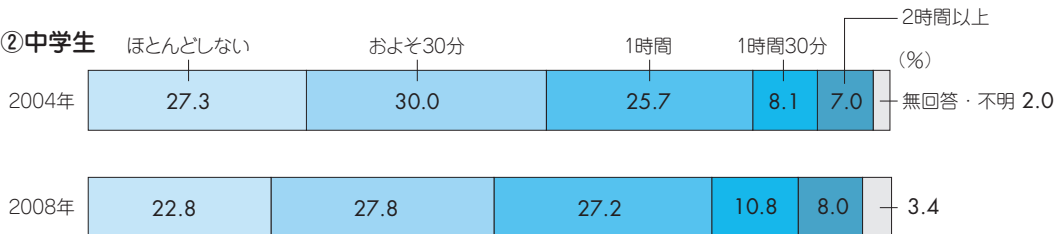


【学校段階別】

①小学生



②中学生



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:家庭学習時間は、塾などでの学習時間を除いて回答してもらっている。

注3:「2時間以上」は、「2時間」「2時間30分」「3時間」「3時間30分」「それ以上」の合計を示す。

家庭学習時間は、「ほとんどしない」が18.6%から14.7%、「およそ30分」が47.4%から44.7%に減少し、「1時間」以上（「1時間」＋「1時間30分」＋「2時間以上」）が32.1%から37.9%に増加した。全体として、小学生も中学生も学習時間が長くなっている様子がみてとれる。「1時間」以上の増加は、小

学生では6.1ポイント、中学生は5.2ポイントであった。このように学習時間が長い子どもが増えているものの、「ほとんどしない」と「およそ30分」の合計は、小学生で64.5%、中学生で50.6%である。半数以上は、30分程度までの学習時間にとどまっている。



(5) 教育費

① 学校外の教育費

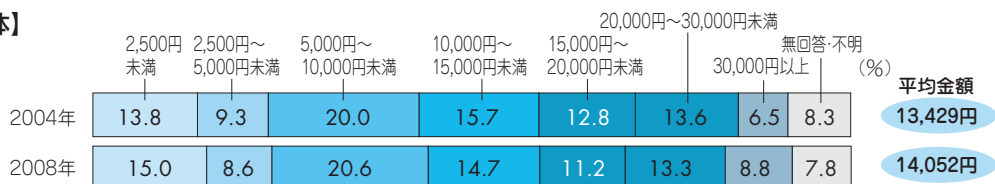
高額な教育費を支出する家庭が増加している



学校での費用を除いた習い事、通信教育、塾、レッスンなどの1か月の費用の合計を教えてください

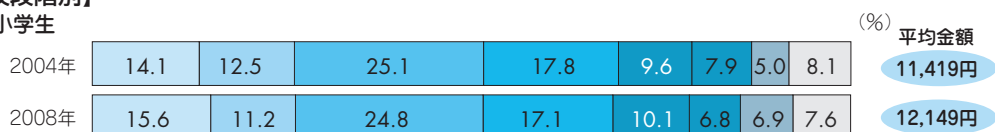
図2-7 教育費(全体/学校段階別/学歴別・経年変化)

【全体】

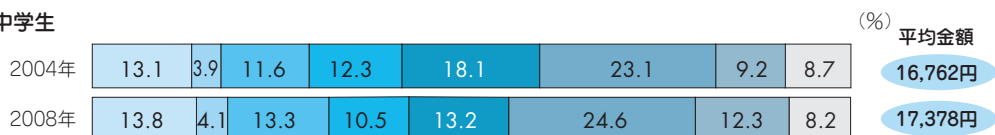


【学校段階別】

① 小学生

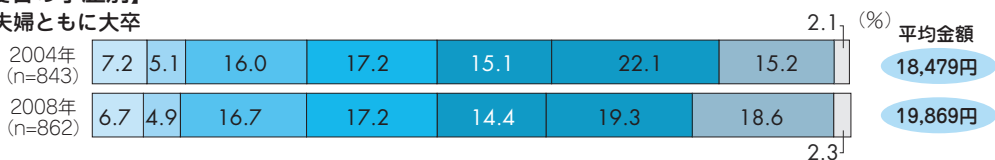


② 中学生

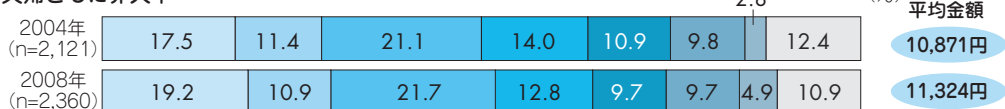


【保護者の学歴別】

① 夫婦ともに大卒



② 夫婦ともに非大卒



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:アンケートを持ち帰った子ども1人・1か月あたりの学校外の教育費(学校での費用を除く)について回答してもらっている。

注3:「30,000円以上」は、「30,000円～40,000円未満」「40,000円～50,000円未満」「50,000円～60,000円未満」「60,000円以上」の合計を示す。

注4:平均金額は、無回答・不明を除外し、「2,500円未満」を1,250円、「2,500円～5,000円未満」を3,750円……「50,000円～60,000円未満」を55,000円、「60,000円以上」を65,000円というように換算して、平均値を算出した。

注5:「夫婦ともに大卒」は、自分および配偶者が「大学・短期大学を卒業しているか」という質問のいずれにも○をしているケース、「夫婦ともに非大卒」は、いずれにも○をしていないケースである。自分もしくは配偶者の一方に○をしているケースは、図から省略した。

子ども1人あたりの1か月にかかる教育費をたずねたところ、「20,000円」以上の回答が20.1%から22.1%に増加しており、わずかではあるが高額の支出をする家庭が多くなっていることがわかった。平均金額も、この4年間で600円ほど増加した。平均金額の推移を学校段階別にみると、小学生は約700

円、中学生では約600円増えている。次に、保護者の学歴による教育費負担の違いをみると、「夫婦ともに大卒」では1,300円以上増加しているのに対して、「夫婦ともに非大卒」では400円を少し上回る程度の増加であった。この4年間で、両者の差は拡大している。



②教育費の負担感

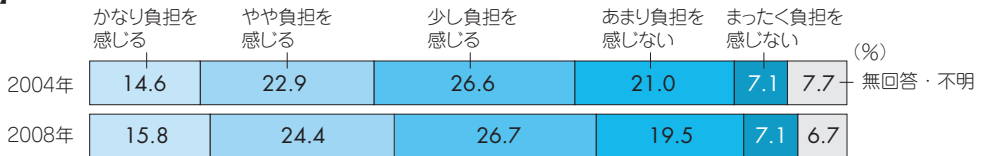
教育費の増加にともない、負担感も高まっている



学校外の教育費用の負担をどのように感じになりますか

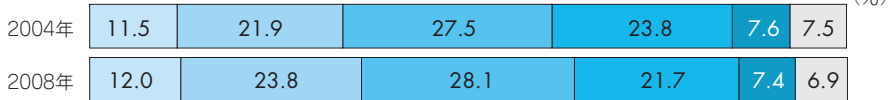
図2-8 教育費の負担感(全体/学校段階別/学歴別・経年変化)

【全体】

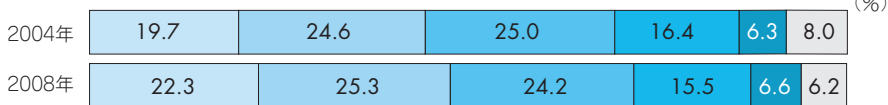


【学校段階別】

①小学生

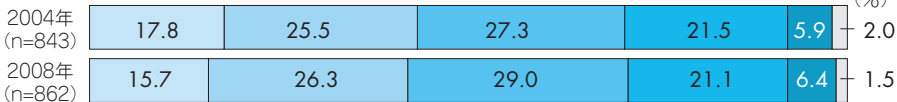


②中学生

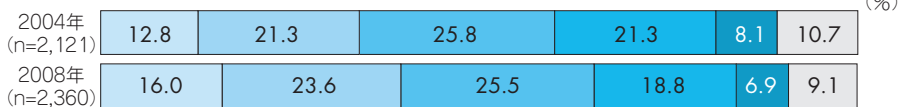


【保護者の学歴別】

①夫婦ともに大卒



②夫婦ともに非大卒



注1:数値は、継続校のみの値。

注2:「夫婦ともに大卒」は、自分および配偶者が「大学・短期大学を卒業しているか」という質問のいずれにも○をしているケース、「夫婦ともに非大卒」は、いずれにも○をしていないケースである。自分もしくは配偶者の一方に○をしているケースは、図から省略した。

教育費についての質問に続いて、その負担感をたずねた。「負担を感じる(かなり+やや+少し)」の比率は、2004年調査では64.1%だったが、2008年調査では66.9%と2.8ポイント増加した。学校段階別に比べると、小学生の保護者に比べて中学生の保護者のほうが負担を感じているが、「負担を感じる」

比率ののびはいずれも3ポイント以内で差はない。さらに、それを学歴別にみると、「夫婦ともに大卒」ではほぼ横ばいなのに対し、「夫婦ともに非大卒」では5.2ポイントも上昇している。実際の負担費用が少ない「非大卒」の夫婦のほうが、以前よりも負担感を増していることがわかる。

本調査の集計表・調査票は、Benesse 教育研究開発センターのサイトにてご覧いただけます。

Benesse 教育研究開発センター ▶ <http://benesse.jp/berd/>

分析メンバー

木村 治生 Benesse 教育研究開発センター教育調査室長

十河 直幸 Benesse 教育研究開発センター研究員

直井多美子 Benesse 教育研究開発センター研究員

Benesse 教育研究開発センター・朝日新聞社

「学校教育に対する保護者の意識調査2008」速報版

発行 : 2008年9月12日

発行人 : 新井 健一

編集人 : 木村 治生

発行所 : (株)ベネッセコーポレーション

印刷・製本 : 牟禮印刷(株)

企画・制作 : Benesse 教育研究開発センター

スタッフ : (株)ジー・アンド・ピー

© Benesse Educational Research and Development Center

無断転載を禁じます。

Benesse®

株式会社 ベネッセコーポレーション
